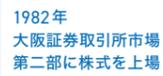
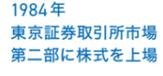
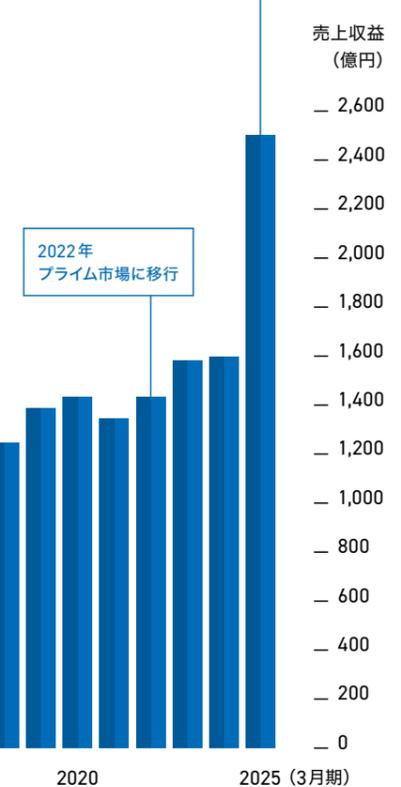


未来を拓くミウラの歴史

ミウラは1959年の設立以来、お客様のお困りごとに応えたいという思いで、製品開発やメンテナンスサービスを成長させ、事業を拡大してきました。これからもミウラグループは、世界中のお客様のニーズ貢献し、サステナブルな地球を次世代に繋げる一躍を担えるよう邁進し続けます。

時代背景と社会的課題・ニーズ

1959年～	1965年～	1987年～	2000年～	2014年～
<p>戦後の好景気</p>  <p>ボイラ事業創成期</p> <p>ボイラ事業への決意</p> <p>朝鮮戦争による特需景気の中、精麦機のボイラの入手が困難となり、創業者・三浦保は、父と共に精麦機を開発。ボイラ部門を設立し独自の傾斜型精麦機を販売する。</p>  <p>株式会社三浦製作所の設立</p> <p>「ボイラー及び圧力容器安全規則」が制定され、中小・零細企業の近代化要求にも応えられる小型貫流ボイラの提供を決意し、1959年に株式会社三浦製作所を設立。</p>  <p>小型貫流ボイラの社会進出</p> <p>「ZボイラZP型」が小型貫流ボイラの認証を取得。好景気を背景に好調に売上を伸ばし、小型貫流ボイラの国内トップメーカーに成長。</p> 	<p>高度経済成長～オイルショックの時代</p>  <p>ボイラ事業の開花・発展期</p> <p>保全への根本対応</p> <p>故障を未然に防止し長く使える設備やノウハウの提供を追求し、有料メンテナンス点検制度「ZM契約」、部品保証付き有償保守制度「ZMP契約」を導入。また、自社製造の水処理薬品、軟水装置などを発売。</p>  <p>技術革新、省資源・省エネへの対応</p> <p>ボイラ効率を向上させる画期的な缶体構造（Qフロー）の「EH型」（効率85%）を1972年に販売。小型貫流蒸気ボイラを複数設置したMI（多缶設置）システムを自動台数制御装置により実現。</p>  <p>事業の多角化</p> <p>空前の造船ブームの中、1967年に船用補助ボイラで業界に進出。また、蒸気を利用する設備機器（食品機械、医療用滅菌器）の製造販売を多角的に展開。</p>  	<p>モノからサービスの時代</p>  <p>ボイラ事業の成長期 グローバル化草創期</p> <p>「テクノサービス」の確立</p> <p>「顧客に役立つ技術」と「自分と云う人間が顧客に愛され信頼されること」という2つが組み合わさった、時代の変化に左右されない、恒久的なミウラの姿勢を確率。</p> <p>ZIS オンラインメンテナンス</p> <p>AI搭載ボイラとその機能を生かすZISオンラインメンテナンスサービスを開始。AIボイラと電話回線を利用したIoTとミウラのメンテナンス網を組合わせた故障を未然に防ぐビフォーメンテナンスサービスを提供。</p>  <p>小型貫流蒸気ボイラAI型</p> <p>グローバル化への一歩</p> <p>1982年に韓国三浦工業株式会社へ出資。その後、カナダ、台北市、米国のシカゴ、ロサンゼルスへ子会社を設立。</p>   	<p>地球温暖化問題、新興国の工業化の時代</p>  <p>ベストパートナー戦略と多角化事業の成長</p> <p>ベストパートナー戦略</p> <p>お客様と共に社会課題の解決に貢献していくことを目指しベストパートナー戦略を展開。</p> <p>蒸気ボイラSQ型登場</p> <p>蒸気ボイラSQ型が業界初の低NOx25ppm以下を達成（2003年）、日本初、化学試験分野（環境分析）の試験所としてISO/IEC17025認定取得（2001年）。</p>  <p>トータルソリューション提案</p> <p>工場全体を通じたエネルギー効率の向上を図り、オールミウラでワンストップメンテナンスを提供。</p>	<p>環境経営、SDGsへの取り組みの時代</p>  <p>グローバルにトータルソリューションを提案</p> <p>異業種とのM&Aで事業を強化</p> <p>将来の人手不足解消やトータルソリューション強化を目的にM&Aで事業を強化。2017年にアイナックス稲本株式会社がミウラグループの一員となり、JENSEN-GROUP NV（ベルギー）の株式20%を第三者割当増資により取得。（現・持分法適用会社 2023年）</p>  <p>サステナブルな社会実現に向けて</p> <p>水素燃料ボイラ、業務用燃料電池、パラスト水処理装置などの環境商品を発売。2050年のカーボンニュートラルにむけ、次世代のクリーンエネルギーの技術開発に積極的に挑戦。</p> 
				<p>M&Aによる企業成長</p> <p>次世代の地球環境を支える企業として常に新たな製品開発、事業拡大を目指す。2024年にCERTUSS GmbH（ドイツ）、The Cleaver-Brooks Company, Inc.（米国）を子会社化。</p>   <p>2025年3月期実績 売上収益 2,513億円</p>  <p>2022年 プライム市場に移行</p>